

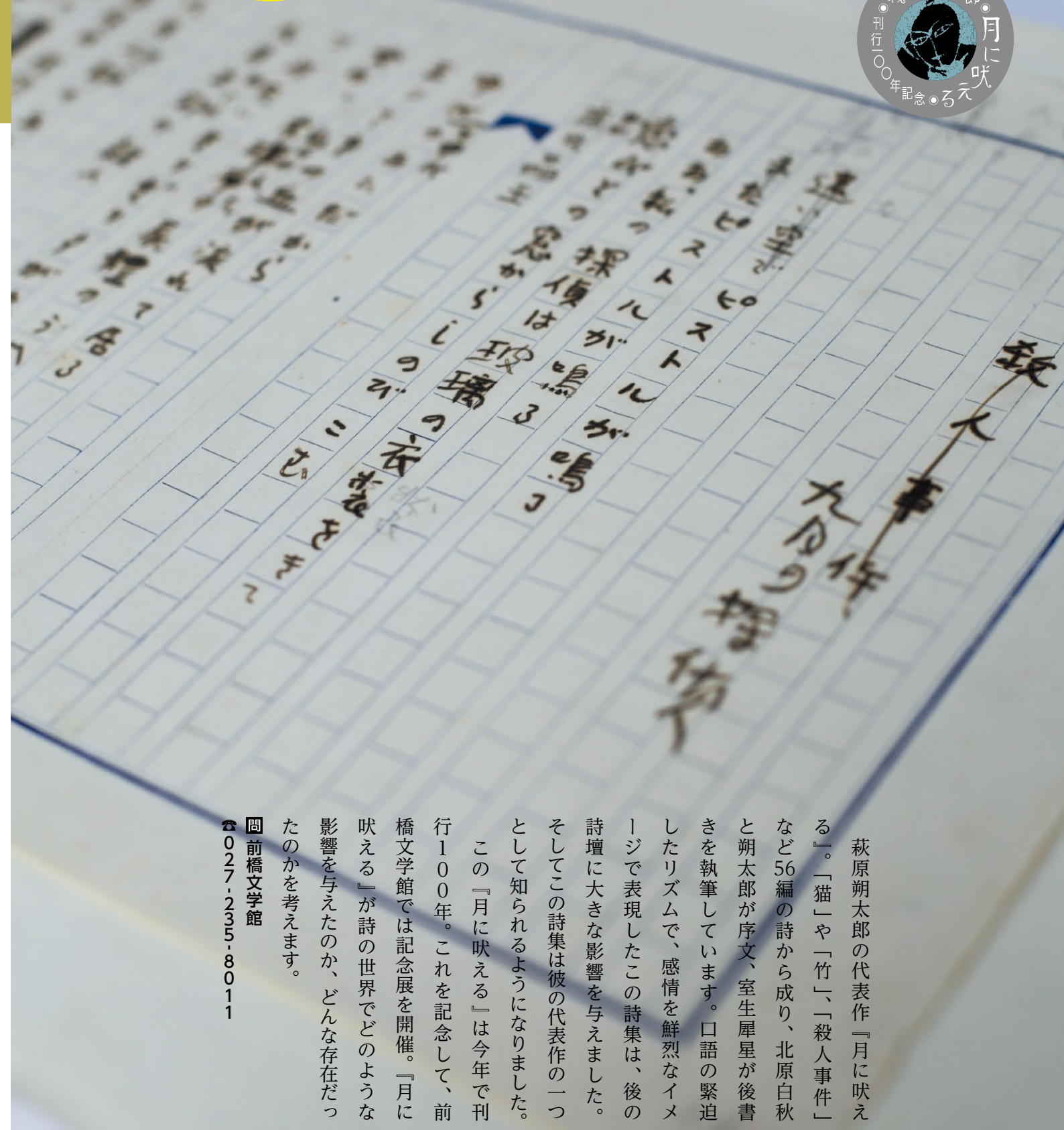


萩原朔太郎研究会 栗原飛宇馬さん

100年前の朔太郎の言葉が 新たな言葉との出会いに

詩とは何か。こんなに明確に、簡潔に教えてくれる詩集は他にありません。これが『月に吠える』の魅力だと私は考えています。一文一文、心に触れてくるものがある。100年たった今でも、言葉との新たな出会いを与えてくれる詩集ですね。多くの文豪に高く評価されたが、朔太郎自身、この詩集にかなり自信があったようです。私もそうでしたが、詩を学ぶ人にとっては『月に吠える』は必ず通る道だと思えます。だから、これからもきっと、人々に読まれ続けるでしょう。朔太郎は多彩な魅力をもつ詩人。研究している中で、今でもたくさん発見があります。『月に吠える』刊行100年を機に、朔太郎の言葉と魅力をもっと多くの人に知ってほしいです。

『月に吠える』刊行から100年 朔太郎の言葉 今もここに



撮影：長尾迪

記念講演

作家の夢 枕獏さんが「言葉の魔術師 萩原朔太郎」と

題して講演します。
日時=7月29日(土)午後2時
対象=一般、先着100人
申し込み=7月8日(土)から前橋文学館へ

詩集『月に吠える』100年記念展—ここからすべてが始まった—
『月に吠える』はどのように刊行されたのか、どのような詩集だったのか、今後どのように読まれていくのか。現在まで続くその影響と意味、『月に吠える』の世界を体感する記念展を開催します。
「竹」や「殺人事件」、「恋を恋する人」などの原稿、ノート、挿画、雑誌を展示。その他にも、詩をイメージしたオブジェやアニメーション、実写映像のアート作品も展示します。
期日 7月22日(土)～10月9日(月)
費用 300円(高校生以下は無料)
7月22日・29日(土)・9月2日(土)・10月7日(土)・8日(日)は無料
●学芸員による展示解説
日時 8月5日(土)・9月9日(土)・10月7日(土)、午後1時30分～2時30分

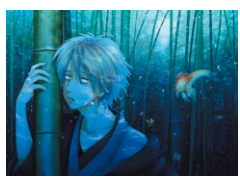
リーディングシアター

リーディングシアター「『月に吠える』を声で立ち上がらせる」を開催。萩原朔太郎役を長谷川初範さん、室生犀星役を林健樹さん、北原白秋役を萩原朔美、ナレーションを柳沢三千代さんが演じます。



日時=8月20日(日)午後1時・同午後3時
対象=一般、先着各80人
申し込み=7月30日(日)から前橋文学館へ

『月に吠えらんねえ』展
萩原朔太郎や北原白秋、室生犀星などの詩作品からイメージされたキャラクターが登場する、清家雪子さんのコミック『月に吠えらんねえ』を展示します。
100年前の朔太郎の詩が、新たな作品を生み出すきっかけに。朔太郎の詩からイメージされた世界を展示で楽しんでください。
期日 7月8日(土)～10月9日(月)



100年読まれ続けてきた『月に吠える』。この間、詩壇に大きな影響を与え、たくさんの人に読まれてきました。この先の100年の間はどのように読まれていくのでしょうか。
「詩は言葉以上の言葉である」。『月に吠える』の序文で朔太郎が書いた一文です。彼の言葉は、100年たった今もこれからも、私たちの心を動かし続けます。



萩原朔太郎の代表作『月に吠える』。「猫」や「竹」、「殺人事件」など56編の詩から成り、北原白秋と朔太郎が序文、室生犀星が後書きを執筆しています。口語の緊迫したリズムで、感情を鮮烈なイメージで表現したこの詩集は、後の詩壇に大きな影響を与えました。そしてこの詩集は彼の代表作の一つとして知られるようになりました。
この『月に吠える』は今年で刊行100年。これを記念して、前橋文学館では記念展を開催。『月に吠える』が詩の世界でどのような影響を与えたのか、どんな存在だったのかを考えます。
前橋文学館
027・235・8011